

平成27年度「支援機器等教材を活用した指導方法充実事業」成果報告書

団体名	大阪市教育委員会
研究開始年度	平成26年度

I 概要

1 指定校の一覧

設置者	学校名	障害種
大阪市	光陽特別支援学校（拠点校）	肢体不自由・病弱

2 研究テーマ

支援機器等を活用した具体的指導内容・指導方法の事例収集と教材データベースの作成、また特別支援学校のセンター機能を活用した小・中学校の特別支援学級での支援機器等を活用した特別支援教育に関する研究

3 研究の概要

大阪市立特別支援学校11校にタブレット端末を拠点校から貸し出し、各障がい種でタブレット端末を中心としたICT機器を活用した指導方法の研究を行った。特別支援学校に研究アドバイザーを派遣し、授業観察、研究協議、研修会等を各校で実施した。指導方法充実検討会議を年間7回開催し、各校の実践を報告するとともに検討を行った。小学校特別支援学級へICT機器活用について、支援相談を実施した。

研究報告書、冊子（ワクワクICT2）を作成するとともに、特別支援学校での実践事例について、光陽特別支援学校ホームページに掲載し広く周知した。

4 研究の成果及び課題

光陽特別支援学校を拠点校にICT担当者による指導方法充実検討会議を月1回程度開催した。各特別支援学校はICT担当者を選出し、検討会議に出席し、情報交換、情報共有、研修等を行った。本事業を受嘱するまでは、ICT機器を担当する校務分掌を設置している学校は3校程度であったが、平成27年度より、情報教育部や情報教育委員会、ICT担当チームなど校内における組織が構築された。これによって、タブレット端末をはじめとするICT機器の管理や整備の充実に向けて、校内で組織的な取組が進むようになった。

すべての特別支援学校において、タブレット端末の校内への導入やタブレット端末に関する専門家アドバイザーによる教員研修会を開催した。教員アンケート調査においても、回答した教員全体の85%が「タブレット端末を授業に活用したい」と回答しており、教員のICT機器を活用したいという意識は大きく上昇した。

特別支援学校のセンター機能として要請のあった学校に対して、ICT機器の授業での活用方法について相談支援を実施した。また、ICT巡回アドバイザーを小学校に派遣して、特別支援学級

の授業観察等を行い、利用可能なアプリ紹介や大型モニターを使用した提示方法などを特別支援学級担当教員に助言した。

研究成果については、①研究報告集の作成、②冊子（ワクワクICT2）の作成、③光陽特別支援学校のホームページに実践事例の掲載を行った。

※なお、大阪市立特別支援学校は、平成28年4月より大阪府に移管している。